

オグデンキリスト教会 歴史 (Ogden Christian Church)

ジェファーソン通り 23 番街での最初の集会の記録は、1903 年 2 月 6 日の米国聖公会(the Protestant Episcopal Church)によるものであった。その日以来、この場所は他のいくつかの宗教団体によって所有されてきた。現在の建物は、北米ドイツ福音教会(German Evangelical Synod of North America)の伝道教会として建設され、その費用は全米の若者たちの寄付によって賄われた。美しいステンドグラスは、第一次世界大戦前にドイツの裕福な家庭から寄贈されたものである。第一次世界大戦中のドイツ系アメリカ人に対する嫌悪のため、教会員は集会を中断し、牧師の B・H・リースマン師(the pastor, Rev. B. H. Leesman)*はシカゴに移住した。この後しばらくの期間、教会の建物は空き家となっていた。

*聖職者に対する敬称として用いる場合には、姓と名をつけて、さらに the をつけるのが正しい用法: the Reverend Martin Luther King (マーティンルーサーキング師); 略 the Rev.(Weblio 辞書>英和辞典)

オグデン日本人キリスト教会の歴史は、日本からアメリカへの入国を認められた 100 人近くの日本人男子生徒がいた、1900 年代初頭にまで遡る。

(原文: The history of Ogden Japanese Christian Church reaches back to the early days of 1900 when there were nearly one hundred Japanese school boys who had been admitted to the United States from Japan.

他の教会でも「男子学生」が多く参加していた様子が見られる。

小林正資氏の指導の下でクリスチャンの交わりが形成され、彼の働きの結果、教会が形成された。最初の数年間は、the Japanese Christian Fellowship のグループは第一長老教会の地下で集会を開いていた。その後、Kariya の店 (グラント通り 24 番街) に移り、さらに 24 番街の郵便局の反対側の 2 階の部屋に移転した。1925 年、会衆はグラント通り 24 番街近くの古い第一長老派教会(the First

Presbyterian Church)の建物を所有するに至った。



辻密太郎牧師の在任中に教会は勢力と人数を増し、1927 年に現在の建物を北米ドイツ福音教会から 7000 ドルで購入するまでになった。この教会は、1927 年 12 月 27 日に正式に日本人合同教会(the Japanese Union Church)として法人化された。個人からの寄付 2000 ドルの他に、2500 ドルの助成金が**合同教会教団**(the United Church of Christ)と**長老教会全国宣教委員会**(the National Boards of Missions of the Presbyterian Church)から出された。この助成金返済のため、毎年恒例の教会バザーが始められた。バザーは 1991 年まで毎年開催された。補助金は 1931 年に全額返済され、抵当権も抹消され、その祝賀会が開催された。

将来に向けた教会の拡張と施設の改築は 1959 年に完了した。このプロジェクトでは、総費用 40,000 ドルをかけて教会のスペースがほぼ 2 倍になった。(資料はここまで)

出典：同教会の「History」…2021 年 3 月に Bob Nakaoka 牧師から送られた資料

訳：辻 直浩 (密太郎ひ孫) 2024/3/26 (赤文字は訳語要確認)